

(3)歩道の整備

目的

1・2級市道及びこれに準ずる道路について、計画的な歩道整備を行うことにより、通学路や公共施設周辺における歩行者の通行の安全性の向上を図ります。特にバリアフリーの視点から安全かつ円滑な歩道空間を確保します。

評価指標

- 整備延長

Pickup

■歩道の整備の計画事業

2-11 宿愛甲片町線歩道整備の概要

市道2-11 宿愛甲片町線は、片側に歩道が整備されていますが、幅員が狭い箇所もあります。

そのため、本厚木20号踏切の拡幅改修を含め歩道を再整備し、安全な歩行空間の確保を図ります。



幅員の狭い歩道の状況

計画事業

■歩道の整備

No	事業名	事業種別	延長(m)	事業実施による効果
1	相模川旧堤防道路(歩道)整備事業 (岡田5丁目)	新規	620	歩道が未整備の厚木戸田線の代替として相模川旧堤防敷を自転車及び歩行者用道路として整備し、車両と区分することで歩行者等の安全確保を図ります。
2	1-10 緑ヶ丘幹線 (緑ヶ丘5丁目)	新規	250	
3	F-232 長谷籠堰竹ノ内1号線 (長谷/明神池)	新規	120	
4	2-48 横須賀水道路線 (金田)	新規	530	
5	2-4 昭和用水線 (旭町5丁目)	継続	220	
6	2-44 藤塚才戸線 (下川入)	新規	60	
7	1-23 水引小野線 (長谷)	新規	30	
8	2-11 宿愛甲片町線 (愛甲3丁目~愛甲東2丁目)	新規	320	
9	1-30 妻田中荻野線 (妻田北1丁目~下荻野)	新規	2,500	

※表中の青線は第8次三箇年計画内で完了予定の事業。青線の矢印は、2020年度以降も継続する事業。

※ の網掛けは、第7次五箇年計画からの継続事業。

期待される効果	第8次三箇年計画		
	2018 (H30)年度	2019 年度	2020 年度
歩行 空間 整備	→		
歩行 空間 整備	→		
歩行 空間 整備	→		
歩行 空間 整備	→		
歩行 空間 整備	→		
歩行 空間 整備	→		
歩行 空間 整備	→		
歩行 空間 整備	→		
歩行 空間 整備	→		



1-10 緑ヶ丘幹線



F-232 長谷籠堰竹ノ内1号線



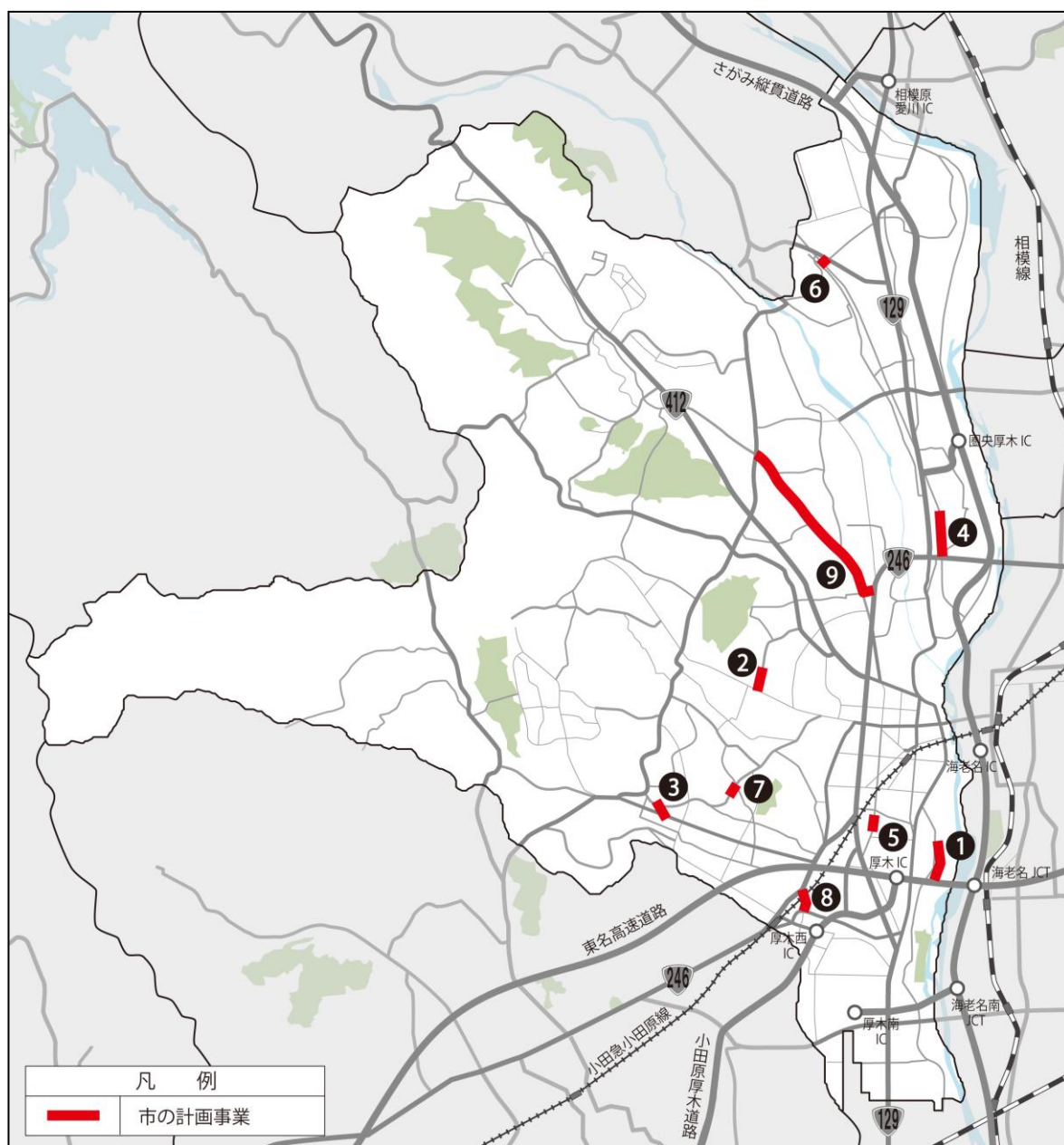
2-44 藤塚才戸線



1-30 妻田中荻野線

位置図

■歩道の整備の計画箇所



<第8次計画事業>

No.	事業(路線)名	No.	事業(路線)名
①	相模川旧堤防道路(歩道)整備事業	⑥	2-44 藤塚才戸線
②	1-10 緑ヶ丘幹線	⑦	1-23 水引小野線
③	F-232 長谷籠堰竹ノ内1号線	⑧	2-11 宿愛甲片町線
④	2-48 横須賀水道路線	⑨	1-30 妻田中荻野線
⑤	2-4 昭利用水線		

(4)生活道路の整備

目的

緊急車両の通行や消火活動、震災時の避難路の確保及び生活環境の改善のために、地域の実情や市民要望を踏まえ、狭あいな生活道路を整備します。

計画事業

地元自治会からの生活道路整備要望等を基に、拡幅、舗装、側溝整備に係る工事及び委託を年間35路線実施します。

■生活道路の整備

事業名	整備路線	事業実施による効果	期待される効果	第8次三箇年計画		
				2018 (H30) 年度	2019 年度	2020 年度
生活道路の整備	年間 35路線	市民が安全で安心して快適な日常生活を営める道路空間を確保します。	狭あい 解消 安全性 向上			

※本事業は、第7次五箇年計画からの継続事業であり、2020年度以降も継続する事業。

Pickup

■生活道路の整備の計画事業

◆整備を予定している道路



C-118(山際)



G-341(愛甲2丁目)

(5)市道の維持管理

目的

道路財源が厳しくなる中、維持管理に要する費用が増加してきています。今後、老朽化のため補修が必要となる橋梁、トンネル等も増加することから、整備してきた道路の効率的な維持管理を進めます。

また、美しく潤いのある道路環境をつくるため、街路樹の更新や、市民団体等との市民協働の活動である「道路里親制度」を積極的に推進していきます。

■市道の実延長

市道実延長	1,181km
-------	---------

■市道の構造物

項目	箇所数	延長
踏切	6箇所	67m
トンネル	2箇所	345m
橋梁	362箇所	4,704m

※平成29年3月末現在



厚木市道路補修事務所の保有車両



橋梁点検の実施状況(鮎津橋)



職員による本厚木駅前広場の除雪作業



トンネル(七沢隧道)

計画事業

■市道の維持管理

No	事業名	事業実施による効果	第8次三箇年計画		
			2018 (H30) 年度	2019 年度	2020 年度
1	街路灯LED化事業	電気料金を含む維持管理費が過大となっている現在、リース方式の活用によるLED化により、年間の電気料金及び維持管理費の削減を図ります。また、LEDの高い省エネ性による市域の低炭素化による環境改善に貢献します。			
2	スマートインターアクセス道路改修事業	スマートインターチェンジへのアクセス道路となる市道2-46、2-52について、現在の交通量に合わせた道路舗装構造に打ち替え、排水などの改修を行い、通行の安全を確保します。			
3	道路施設維持管理事業（街路樹）	街路樹の適正な維持管理を行うため、計画的に本数を管理するとともに、樹木の特性や機能が十分に発揮できるよう新たな樹種への更新を行い、安心・安全で良好な景観を備えた歩行空間の形成に取り組めます。	→		
4	道路里親制度事業	道路里親となる市民団体のボランティア活動により道路の清掃、植栽及び除草を実施していただくことで、美しい潤いのある道路環境づくりを推進するとともに、道路愛護意識の向上を図ります。	→		
5	橋りょう維持補修事業	橋りょう施設の安全対策及び維持管理を実施し、市民の安全な施設利用を図ります。	→		
6	道路パトロールの実施	道路施設を常時、良好な状態に保つためには道路パトロールに加え、市民の皆様から寄せられる情報は迅速な対応に不可欠であり、ホームページなどを通して道路に関する情報の収集や発信に努めます。	→		
7	道路維持補修事業	道路の安全性や快適性を維持し、良好な市道の保全を図ることにより、円滑な道路交通と安全な市民生活を確保します。	→		

※表中の青線は第8次三箇年計画内で完了予定の事業。青線の矢印は、2020年度以降も継続する事業。

※ の網掛けは、第7次五箇年計画からの継続事業。

Pickup

■市道の維持管理の計画事業

街路灯 LED 化事業の概要

2009（平成 21）年の国連環境計画（UNEP）において、水銀汚染防止に向けた国際的な水銀規制に関する新条約（水銀条約）を制定するため、2010（平成 22）年から政府間交渉委員会（INC）を開催し、2013（平成 25）年1月（第5回会合）に水銀条約の条文案が合意され、電池、蛍光灯（ある一定以上の水銀量を有するもの）、高圧水銀灯、スイッチ・リレー、温度計等の製造、輸出及び輸入を禁止（2020 年全面禁止）することとなりました。

このことを受け、市域の街路灯 2,684 灯のうち、既存の LED 照明 112 灯を除く 2,572 灯を対象に、リース方式（10 年間）の活用により、LED 照明に更新する事業です。



街路灯LED化事業

スマートインターアクセス道路改修事業の概要

（仮称）厚木 PA スマートインターチェンジへのアクセス道路となる国道 246 号から昭和橋までの 6.5km の堤防道路（市道 2-46、2-52）は、整備当時に比べ通行量が増加しています。また、スマートインターの開通によって、大型車をはじめとした通行車両の増加が想定されることから道路の損傷を未然に防止し、適切な維持管理を図るため、交通量に合わせて再整備を行います。



交通量が増加している堤防道路



道路里親制度の概要

地域との協働の取組として「道路里親制度」を行っています。これは、市民の皆さんに「道路の里親」になっていただき、身近な市道の美化活動（厚木市道の清掃、除草、草花の植付け管理など）をしていただく制度です。美しい潤いある道路環境づくりを推進するとともに、道路愛護意識の向上を図り、制度の普及に努めます。

登録団体数は平成 30 年 1 月現在で 47 団体です。



登録団体による活動の様子

Topics

損傷箇所の早期発見・早期対応のために

1 道路パトロール（平常時・異常時）

道路補修事務所の日常的なパトロールに加え、月1回全市域を網羅する道路パトロール及び徒歩による道路一斉パトロール等を実施し、道路損傷箇所の早期発見、早期対応に努めます。

大雨注意報等の気象情報などから道路交通への影響が懸念されるとき、浸水想定箇所などの事前道路パトロールを実施し、敏速かつ適切な措置に努めています。

2 市民の皆さんからの情報提供

市民の皆さんが生活の中で利用する中で発見した道路損傷等について、情報提供いただいています。道路の安全について意思を高めていただくことで、早期発見、早期対応に繋がっています。

3 協力機関・企業からの情報提供

市内の道路を業務で通行する機会が多い郵便局、タクシー会社などと、道路損傷等を発見したときは速やかに通報いただけるよう「道路の損傷等の情報提供に関する覚書」を締結し、道路の保全に協力いただいています。

覚書を締結している事業所等

郵便局（2局）
タクシー（3社）
新聞販売所（17販売店）
公益財団法人 厚木市環境みどり公社

■路面下の空洞調査



毎年車両による調査を実施

■防災訓練【道路パトロール異常時のイメージ】



倒木撤去訓練



土のうづくり訓練



土のう運搬の訓練

3-3 3つの重点プロジェクト

(1) 新たなアクセス道路の整備

目的

厚木市には大規模な事業所の立地や工業団地が集積し、通勤のための車両や送迎バス、物流車両等による渋滞が発生しています。これらの渋滞を緩和するため、集中する交通の分散化を図る新たなアクセス道路の整備を進めます。

また、現在推進している開発事業地区にも、今後、産業拠点として企業立地の進展が予測されるため、開発事業地区周辺のアクセス道路の整備を進めます。

計画事業

■ 新たなアクセス道路の整備

No	事業名	事業概要	第8次三箇年計画		
			2018 (H30) 年度	2019 年度	2020 年度
1	中町第2-2地区 周辺交通アクセ ス整備事業	中町第2-2地区周辺整備事業に合わせ、バス、歩行者、自転車が円滑かつ安全に移動できる周辺アクセス道路の整備計画を立案し、整備を進めます。	→		
2	森の里東拠点整 備等交通アクセ ス整備事業	愛甲石田駅から岡津古久や森の里方面へ向かう通勤車両及び送迎バスの分散を図るため、既存道路を活用したアクセス道路の整備計画を立案し、整備を進めます。	→		
3	尼寺原工業地域 交通アクセス整 備事業	国道246号と県道603号の水引交差点の混雑緩和に向け、尼寺原工業地域への新たな交通アクセス道路の整備計画を立案し、整備を進めます。	→		

※表中の青線は第8次三箇年計画内で完了予定の事業。青線の矢印は、2020年度以降も継続する事業。

Pickup

■新たなアクセス道路の整備 重点プロジェクト①

中町第2-2地区周辺交通アクセス整備事業

中町第2-2地区の整備に合わせ周辺アクセス道路の整備が不可欠です。本整備計画はバスの円滑な通行や歩行者・自転車の交通動線を確保し、新たな交通需要にも対応できる新設道路も含め、周辺アクセス道路の整備計画を提案するものです。今後、事業担当課と協議し、地区周辺道路網の拡充を図ります。

期待される効果

交通
円滑化

歩行
空間
整備



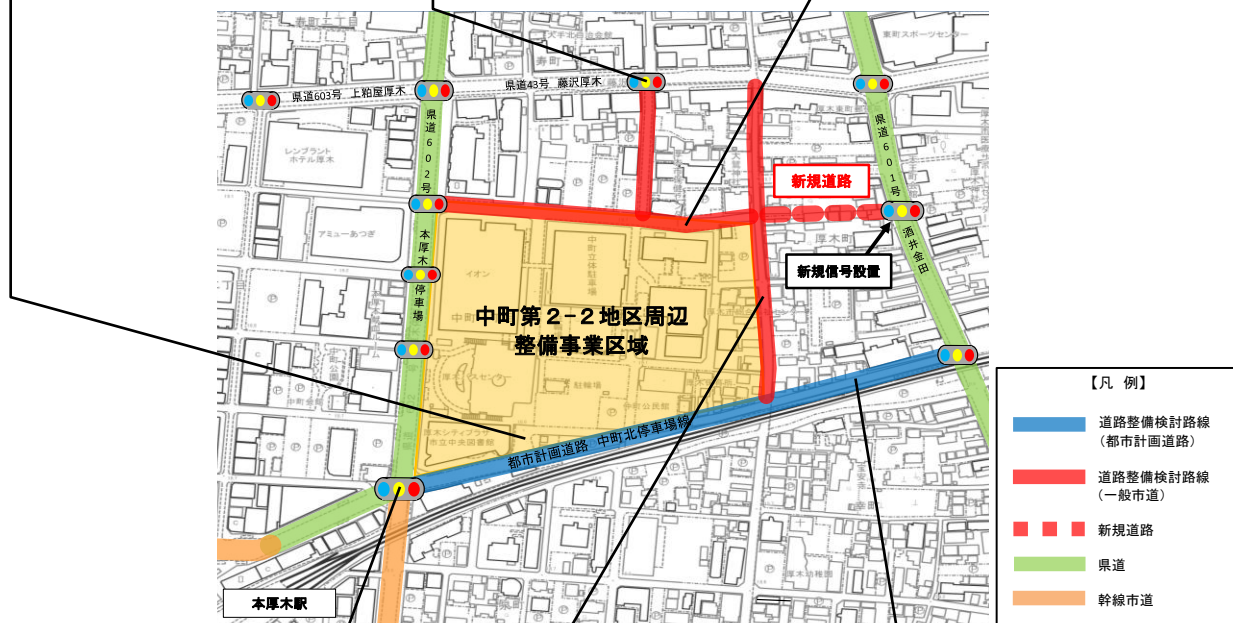
厚木バスセンター入口



総合福祉センター入口交差点



中町立体駐車場地先



本厚木東口交差点



市道A-5



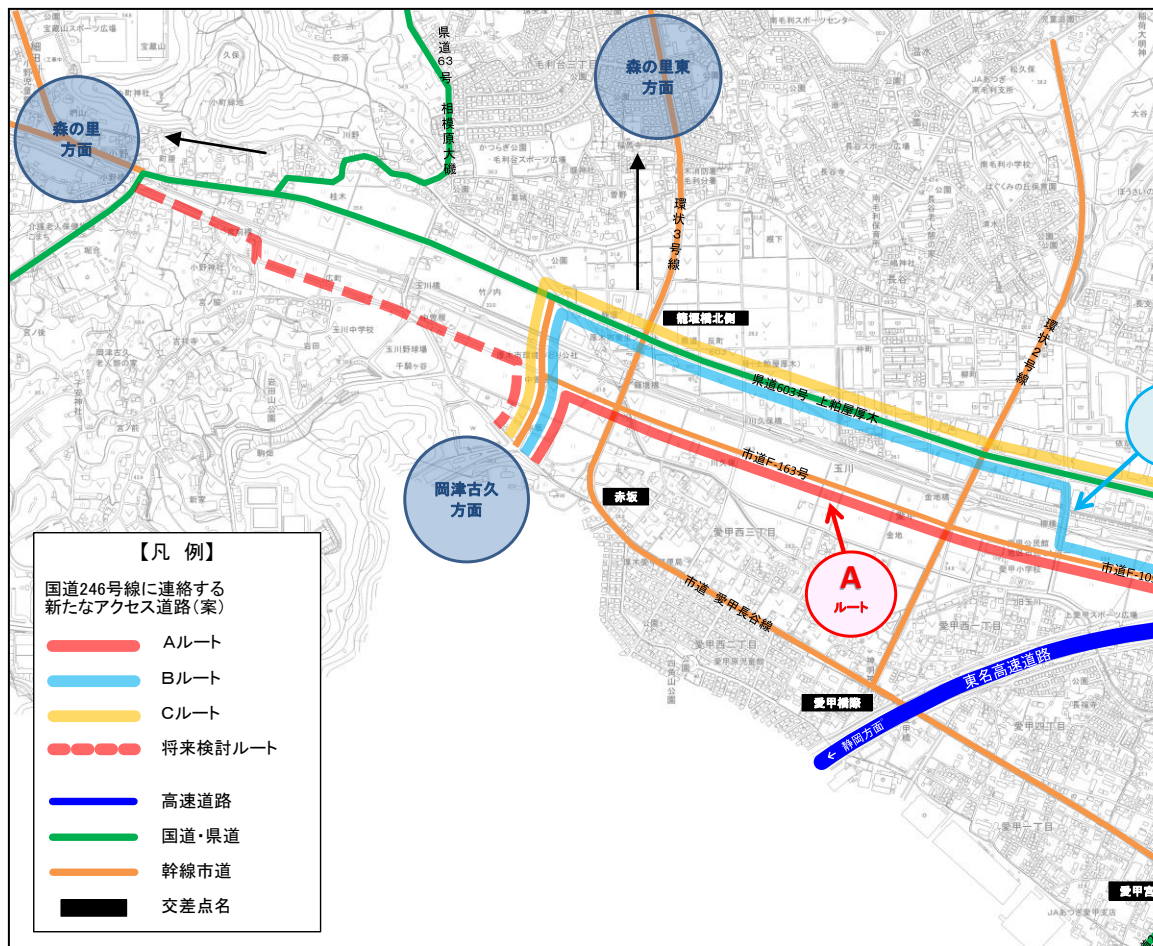
中町北停車場線東方面

森の里東拠点整備等交通アクセス整備事業

近年、愛甲石田駅を最寄りとする企業の通勤利用者が増大し、愛甲宮前交差点周辺において、交通の集中が発生しています。また森の里東地区（土地区画整理事業施行中）への企業立地が進む中で、アクセス道路の整備が喫緊の課題となっています。

本事業は、愛甲石田駅から岡津古久や森の里方面へ向かう通勤車両及び送迎バスが朝夕の通勤時間帯に集中することが大きな要因であることから、既存の道路を新たなアクセス道路として再整備することで、交通の分散と移動時間の短縮を実現するものです。

●事業延長＝1.8 km



赤坂竹ノ内線と県道 603 号の交差点



愛甲小学校手前を右折 (Bルート)



東名厚木バスストップ駐車場から西方向を見通す

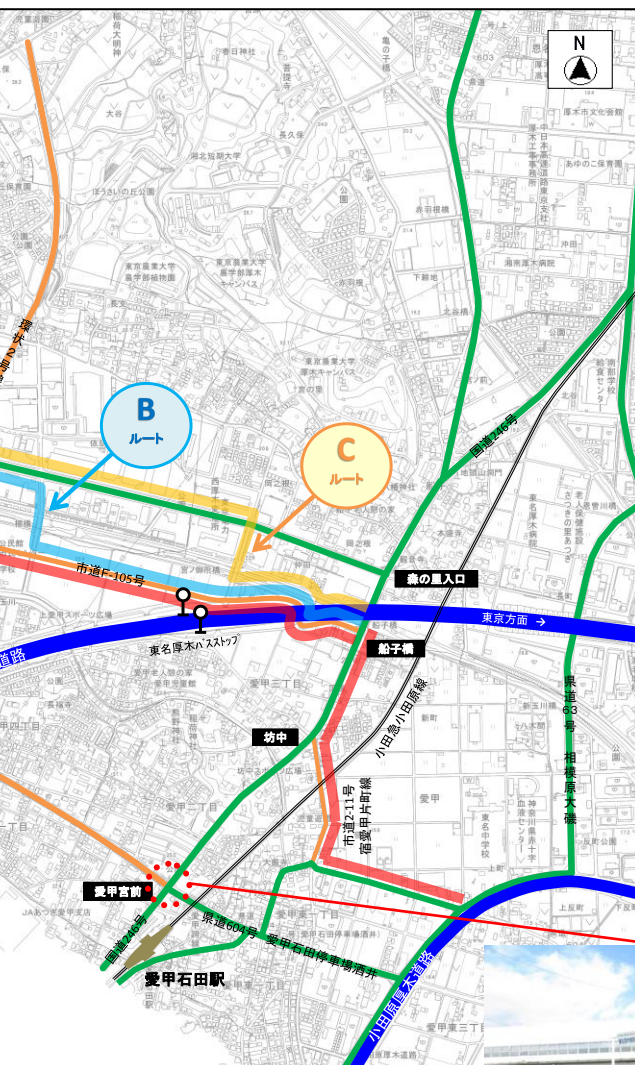
期待される効果

渋滞
解消

経済
活性化



愛甲宮前交差点付近。通勤者で混雑が激しい



愛甲宮前交差点先にある企業の送迎バス



愛甲石田駅利用客が行き交う
ペデストリアンデッキ



国道246号船子橋交差点から
西方向へ進入



愛甲宮前交差点の改良を
計画に位置付け(P70 参照)

尼寺原工業地域交通アクセス整備事業

本事業は国道 246 号と県道 603 号の水引交差点における長年の交通混雑に係る課題の解消に向けた取組として、尼寺原工業地域への新たな交通アクセスのルートとすべく、既存市道の拡幅及び一部新設道として整備し、水引交差点の交通の分散を図るとともに道路ネットワークの拡充を図ります。

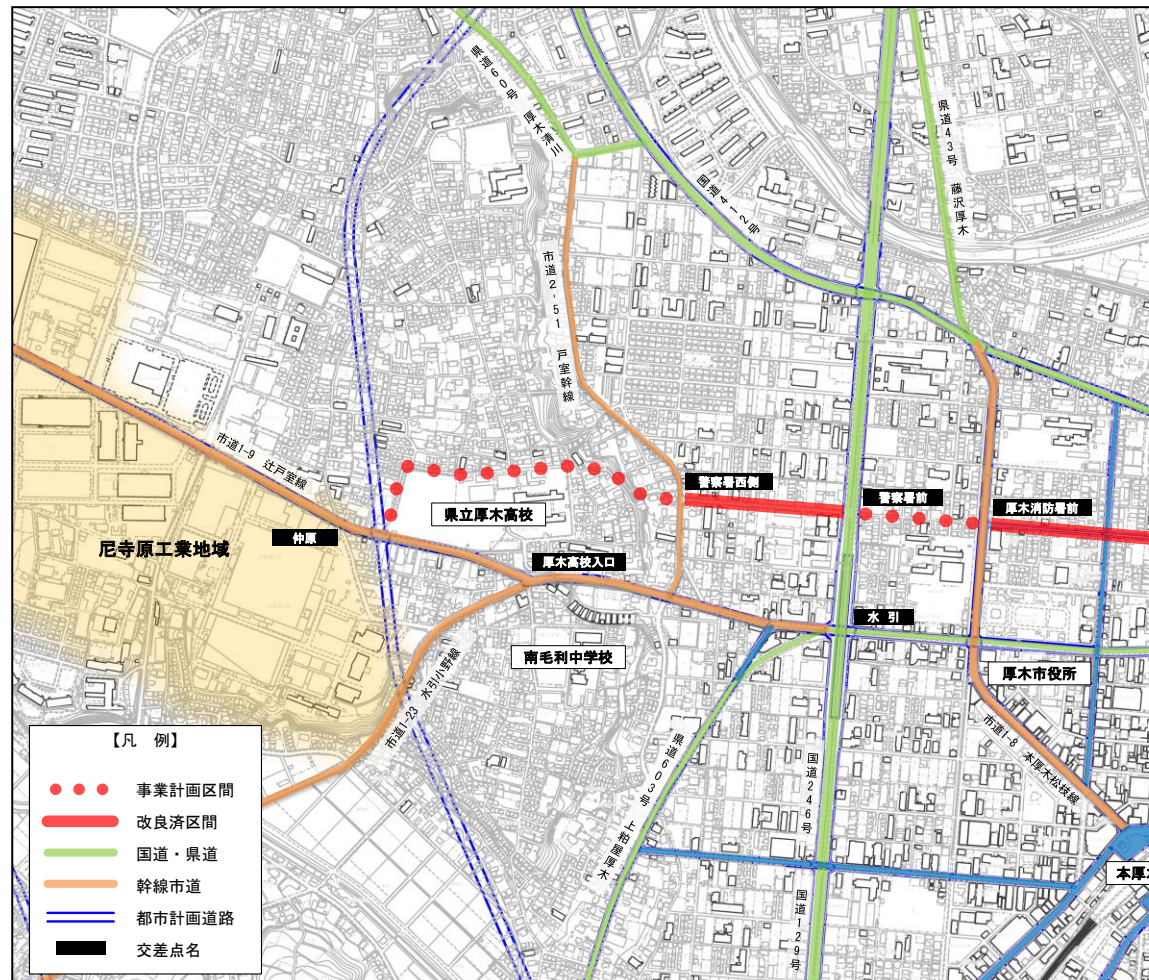
●事業延長＝2.2 km（改良済み区間 0.8 km）



混雑が目立つ厚木高校前バス停付近



あゆみ橋



期待される効果

渋滞
解消

経済
活性化



寿町交差点から西方向



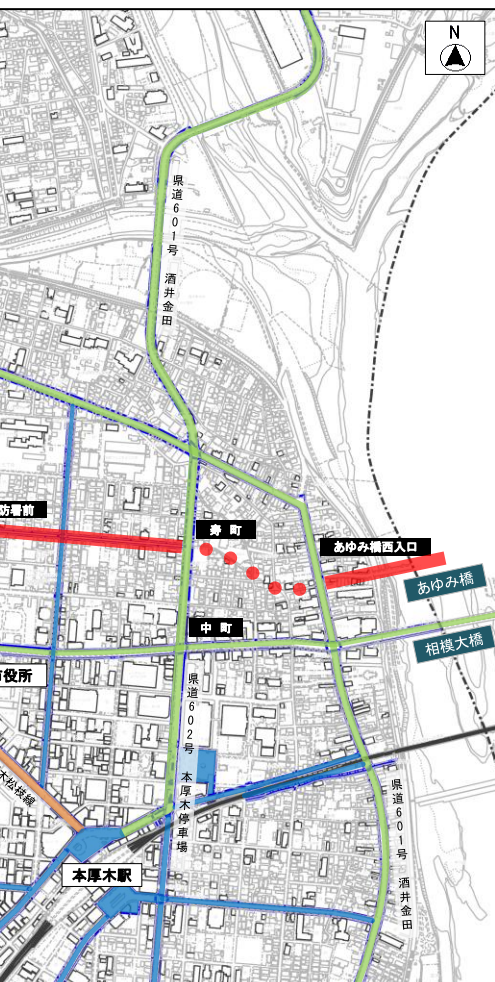
あゆみ橋入口交差点



厚木消防署前交差点(この先は一方通行)



警察署前交差点の改良を計画に位置付け
(P70 参照)



厚木高校外周道路から尼寺原幹線に合流

Topics

新東名あつぎウォーク
～1万人が参加～

2018（平成30）年1月28日の新東名高速道路の厚木南インターチェンジから海老名南ジャンクションまで（約2キロメートル）の開通に先駆け、12月24日、道路を歩く記念イベント「新東名あつぎウォーク」が開催されました。「高速道路を歩く貴重な体験ができる」と話題に……。約1万人の参加者は、来る全線開通の日に思いを馳せました。

